

平成28年度 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

日 時：平成29年3月22日（水）10：00～11：30

場 所：旭川市職員会館2階 第2・3会議室

出席者：委員7名

上島聡委員，堀川陽子委員，沖全委員，金谷信夫委員，濱塚努委員，平田章洋委員，
大矢二郎委員

各町6名

| | |
|-------------------|------|
| 鷹栖町総務企画課企画広報係 | 松本係長 |
| 東神楽町まちづくり推進課 | 小泉課長 |
| 当麻町まちづくり推進課 | 寺島課長 |
| 比布町総務企画課企画振興課係 | 黒瀬係長 |
| 愛別町総務企画課政策企画室 | 大山室長 |
| 上川町企画総務課企画グループ | 片岡主査 |
| 東川町企画総務課写真文化首都創生室 | 今野主任 |
| 美瑛町政策調整課 | 今滝課長 |

上川総合振興局

地域政策部地域政策課 榎波主査

事務局（旭川市）4名

総合政策部：佐藤次長

政策調整課：上代主幹，梶山主査，水野

傍聴者：なし

会議資料：次第

- 資料1 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿
- 資料2 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱
- 資料3 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議ルール（案）
- 資料4 上川中部定住自立圏構想の概要
- 資料5 定住自立圏形成協定の変更等について
- 資料6 上川中部定住自立圏共生ビジョン（案）
- 資料7 定住自立圏構想推進要綱
- 資料8 定住自立圏構想推進のための地方財政措置について

【会議内容】

1 開会

2 委員紹介（資料1）

（各委員，各町からの出席者を事務局が紹介。）

3 懇談会

(1) 座長，副座長選出（資料2）

ア 座長の選出

（事務局の佐藤次長が仮議長となり，座長の選出を行った。）

（事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。）

イ 副座長の選出

（座長は，副座長に平田委員を選任し，了承された。）

(2) 会議ルールについて（資料3）

（事務局から説明。提案のとおり了承された。）

（座長より，次年度以降に報道依頼を実施する旨の提案あり）

(3) 上川中部定住自立圏構想の概要と懇談会の目的について（資料4）

（事務局から説明）

(4) 議事

ア 定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更について（資料5・資料6）

〈定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更〉

（事務局から説明）

○次年度は，新規1事業と既存事業の内容を変更が1事業となっております。

○新たに連携を行う事業といたしましては，鷹栖町，東神楽町との間で連携する「農業生産技術等情報共有事業」であります。圏域の農業振興に資するために，農業生産技術等に関する情報の共有を図り，複数自治体をまたぐ農業団体とともに生産者支援を行います。

○事業の変更につきましては，鷹栖町，東神楽町，当麻町，比布町，愛別町，上川町，東川町との間で連携している「広域観光のネットワーク化」であります。変更理由といたしましては，上川中部1市7町で構成する「大雪広域観光圏推進協議会」において目指していた観光圏が国の方針変更により認定自体がなくなったことからこれに伴い変更するものであります。

○なお，連携事業数につきましては，今年度と比較して1事業追加となり，平成29年度からは29事業となります。

〈共生ビジョンの変更について〉

（事務局から説明）

○形成協定の変更に伴い，共生ビジョンの内容を変更するものであり，該当ページといたしましては，「広域観光のネットワーク化」が29ページであり，「農業生産技術等情報共

有事業」が31ページであります。

○また、定住自立圏構想推進要綱の一部改正において設定が求められていた上川部圏定住自立圏域の将来像（将来人口及び高齢化率の目標値）及び各項目における成果指標（KPI）についても新たに記載しております。上川部圏定住自立圏域の将来像（将来人口及び高齢化率の目標値）に関しましては、15ページ、各項目における成果指標については、17ページ以降に記載しております。

イ 今後の新たな広域連携へ向けた意見交換について

（座長）

○人口減少が進んでいますが、それに対して広域で何か出来ることはないかということや流入をいかに増やすかということについて、皆さんのご意見をいただきたいと思っています。企業誘致や旭川市で検討されている公立大学の設置などは、一つの方策になると考えております。

（委員）

○どこも自治体も人口が減っている状況にあると思います。企業誘致も含めて具体的に意見を伺うことができたかと考えております。人口動態として、各町から旭川市へ、旭川市から他の圏域へという流れがあります。

（座長）

○東神楽町は人口が増加しています。人口の推計がされておりますが、少しでも人口減少が緩和できるようにしていく必要があると考えております。例えば、東川町では日本語学校を運営するなど、他自治体で取り組んでいることはありますか。

（委員）

○当町でも人口減少は進んでおり、人口が減るのは仕方ないとしても、町外に流出しないようにする必要があると考えております。当町では、高齢者施設やサービス付き高齢者住宅の整備などが進められている。施設の従事者には、旭川市から通勤し業務終了後、旭川に帰る方が多いと聞いているが、圏域として、人口は保たれていると考えます。

○また、新規就農も進んでいる中で、町内会活動など可能な限り庁内に入ってもらえるように努めております。

（座長）

○地場産品で良質なものはあるが、販路拡大やネットワークが広がれば良いと考えております。私は、東京出身ですが、ウィンタースポーツなどの趣味の関係や都市機能の集積など隠れた可能性があるのではないかと思います。交流人口が増えて、移住につながる。とにかく一度、来てもらって圏域の良さを知ってもらうことが大切ではないでしょうか。カムイスキーリンクスでは、ここ数年、より良質な雪を求めて欧米からの利用客が増えています。大雪山旭岳は春スキーの名所として有名だと思います。

○観光の関係からみても、昨今のJR北海道の問題は、大変重要であり、ぜひとも存続させていく必要があると考えております。

（委員）

○本日、参加いただいた中で、東川町と美瑛町の方が今回、初めて参加していただいているとのことなので話を聞いてみたいです。

（委員）

○当町では、移住定住に向けまして、官民で外国人留学生を受け入れており、滞在期間はそれぞれですが、常に200人程度の学生が街に滞在しております。

○また、若者の移住定住が増えており、企業に対する補助を実施するなどの取組を進めております。座長から話があったとおり、交流人口を増やしていく取組は大変重要であります、東京等での知名度は低いことからイベント等に積極的に出演しております。

(委員)

○当町のまちづくり委員会では、地域住民と行政が協働で人口減少のために活動しております。当町は、高齢者の割合が総人口の3割であり、インフラの整備が進められているほか、70歳以上の住民に対するタクシーの割引などが行われております。

○当町においては、十勝岳の噴火という災害リスクがあり、高齢者の避難について、行政に投げかけをしているところです。

○観光客、特に、中国人観光客が多いですが、マナーが問題であり、農地への立入や交通事故などが課題となっております。

(座長)

○噴火の話がありましたが、上川中部圏域は災害が少なく、全国61地点の中で、今後50年間に於ける震度6弱以上の地震が発生する確率が一番低いとされております。自然災害が少ないことを強みとして、例えばデータの保管場所などとして売り出していくべきだと考えます。

(委員)

○当町は、「世界一美しい村連合」に加盟しておりますが、離農者が増えており美しい景観の維持が課題となっております。移住者に担ってもらいたいと考えておりますが、経験がない場合においては、難しい現状です。一番の課題は、除雪。だからこそ、交通体系の維持や移動手段の確保は最重要事項です。

(座長)

○医療の側面からも、冬季の移動手段の確保は大変重要です。広域での連携として、ドクターヘリの運行なども行われているのではないかと考えます。

(委員)

○除雪に関して、当町の除雪体制は良いと感じています。

○消防の広域化に伴って、旭川市の職員が救急車の中で、地図を確認している姿が見受けられ、不安に感じたことはあります。

(座長)

○旭川市は、渋滞が少ないなどの理由から、通報を受けて救急隊員が現場に到着するまでの時間が短いことで有名です。広域連携に伴う職員の経験不足については、例えば、カーナビの活用などで補うことも考えられると思います。

(委員)

○高齢者は、まちに住み続けたいと考えている方が多い。そのためには、公共交通など生活の足が大切です。

(座長)

○最近、高齢者の運転事故について話題になることが多いですが、移動手段としてのマイカーは欠くことができません。旭川市では、バス乗車について、70歳以上を対象に市内のみ100円で利用することができ、活用させていただいています。そういった取組を市内のみ

ならず実施していただきたいと考えます。

(委員)

○田舎だと移動手段は限られている。当町は、木材関係の企業が倒産し、従業員であった個人住宅に住む独居高齢者が多数いる。10年ほど前から社会福祉協議会が中心となり、住民の住宅を除雪しており、好評である。屋根の雪おろしについても、年に1回、まちが費用負担をしており、平成28年度からは、道路から間口にかけての除雪を開始し、少しでも快適に生活できるようにしてもらいたいと考えています。

○また、私が住む集落には、若者が飛び込んでくることが多いですが、定住にはなかなか結びつかない状況であります。特定農業法人を設立し、就農支援を進めるなどの取組を進めております。

(委員)

○当町では、人口が増え、待機児童が発生しており、小規模保育所を一箇所増やすなどの対策が進められています。しかしながら、働き場所は、旭川市が多い状況です。空港や旭川市に近いことから利便性はよいと考えています。

(座長)

○上川中部には、空港があり、首都圏へのアクセスは非常によいことは大きな魅力であります。

(委員)

○LCCが就航しているともっとありがたいのですが。

(座長)

○個人住宅における除雪については、玄関からの道路までのアプローチにカーポートを設置するなど建設時に工夫できることがあるかもしれません。

○時間が限られてきておりますが、今後、ますます定住自立圏の取組など広域的な取組が重要になると改めて感じたところです。

(5) その他

○特になし

5 閉会

(事務局)

○本日は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。人口減少の中、圏域が一丸となって取組を進めていくことによって圏域全体の魅力を高めていき、上川中部圏域の更なる発展に向けて取り組んで参りたいと思います。

○以上をもちまして、平成28年度上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。委員の皆様におかれましては、大変お疲れ様でございました。

以上